

二〇一四年九月二四日(弓弦羽神社他参加者一名)

芝庭に点描なせる散もみぢ	菜々
ゆづるはの杜の一步に風さやか	"
秋暑し釣り上げられし鮎にほふ	"
燦々と千木の緑青天高し	"
ゆくりなく火伏の神へ秋時雨	"
鵙高音帝御製の碑に	"
もとほれば弓弦羽の杜秋氣満つ	せいじ
うそ寒し砲弾並ぶ忠魂碑	"
秋天にひびく祈願の太鼓かな	"
池の面に朱をこぼしゐる芙蓉かな	わかば
緑青の社に添へる紅葉かな	"
秋水へ樹々の彩り藍深し	"
萩の風へと扉を開く美術館	小袖
老翁の両手に杖や野路の秋	"
池畔に逆さ芙蓉の紅滲む	"
色変へぬ松のしもとにちから石	ほんこ
鳶紅葉攀じる池塘の石垣に	"
千木高き社へ紅葉明かりかな	つくし

一枝に触るればほると萩の屑	よう子
釣人のリリース早し秋うらら	満天
色変へぬ松水面へと傾きぬ	"
柏手の音の揃ひて秋高し	"
本殿へ翳す大樹の薄紅葉	"
佇みて秋の声聞く石畳	"

吟行句会みのる選

二〇一四年九月二四日(弓弦羽神社他参加者一名)